終戦のころの調布飛行場周辺



1945年（昭和20年）8月28日米軍撮影
調布市郷土博物館提供
（原版は米国国立公文書館蔵）

東京・三鷹・大沢

太平洋戦争　首都防衛
高射砲陣地跡



国土地理院

第1903部隊調布隊本部
（現在は三鷹市立羽沢小学校）

この４砲台跡が現存しています。

兵舎と高射砲陣地

大沢の陣地は、段丘下（現在の羽沢小学校のところ）に、東部軍高射砲第 112 連隊第 1 大隊本部と第 4 中隊の兵舎、炊事場、倉庫等９棟が建っていました。丘の上には、八八式高射砲６門が半円型状に配置され、通信所・監視所・観測所・計算所等を半地下式として掩体で囲まれていました。高台南面の傾斜地に地下壕を掘って弾薬庫として使用していました。兵舎と高射砲陣地との間に桟橋がかかっていました。調布飛行場は隅から隅まで見通せました。

高射砲陣地

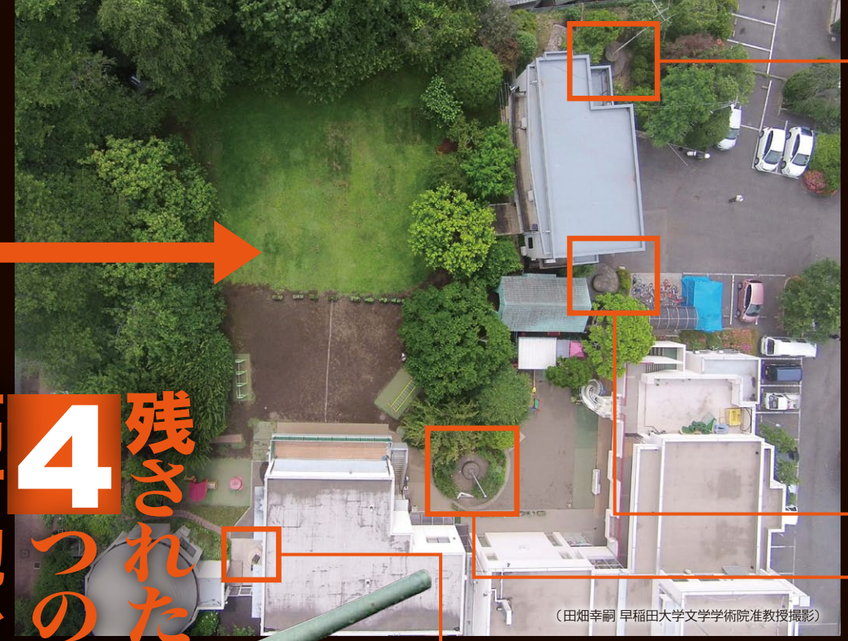
半円形にそれぞれ６門の砲台が写っていますが、その内、上方の陣地が現在の「椎の実子供の家」周辺です。４つの砲台跡が残されています。（上の拡大写真を参照）

レーダー装置

フィリピンで米軍から捕獲したものを日本の工場で分解研究して野戦用として造ったもの（タ号）。半地下式で掩体で囲まれていました。

照空隊陣地（しょうくうたい）

現在の神代植物公園駐車場から東側一帯に照空隊陣地がありました。照空隊は、夜間の空襲に備えて敵の飛行機をライトで照らす部隊で、聴音機等で捉え、高射砲隊に位置情報を伝達する役割を担っていました。



残された4つの高射砲台座跡



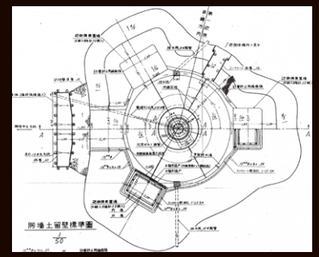
沖縄戦で使われた八八式高射砲



以前、椎の実子供の家にあったプラネタリウムの投影機が記念として置かれています。



左の台座跡の遺跡調査（2010 年 8 月）の時の写真



高射砲台座の平面図

（参謀本部「高射砲陣地築設要領」1943 年）



上の台座跡のすぐ西側（写真では上部）は崖になっています。台座の上にあるのは下水道管。鈴木平三郎は三鷹市長時代、市内全域に下水道を敷設し、三鷹市は「下水道日本一」と呼ばれました。



